



公立大学法人

前橋工科大学

Maebashi Institute of Technology

令和 6 年度業務実績に関する報告書【概要版】



令和 6 年度 年度計画の実施状況

業務の全体的な実施状況は、62項目のうち、年度計画を上回って実施している（A評価）が3項目（4.8%）、年度計画を計画どおりに実施している（B評価）が59項目（95.2%）であった。

62項目の全てがA評価又はB評価となっており、年度計画を十分に実施していると認められる。

No	区分	令和 6 年度				令和 5 年度				令和 4 年度				令和 3 年度				令和 2 年度				令和元年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
1	大学の教育研究等の質の向上に関する計画	1	32	0	0	2	37	0	0	1	39	0	0	2	37	2	0	1	37	4	0	5	34	1	0
2	業務運営の改善及び効率化に関する計画	0	5	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	0	6	0	0	0	6	0	0	1	4	1	0
3	財務内容の改善に関する計画	2	6	0	0	1	8	0	0	0	9	0	0	0	8	0	0	0	8	0	0	0	7	0	0
4	自己点検・評価及び情報公開に関する計画	0	3	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0
5	その他業務運営に関する重要な目標	0	13	0	0	0	13	0	0	0	18	0	0	2	21	0	0	2	24	0	0	2	22	2	0
合計		3	59	0	0	3	67	0	0	1	75	0	0	4	77	2	0	3	80	4	0	8	72	4	0
比率		4.8%	95.2%	0.0%	0.0%	4.3%	95.7%	0.0%	0.0%	1.3%	98.7%	0.0%	0.0%	4.8%	92.8%	2.4%	0.0%	3.4%	92.0%	4.6%	0.0%	9.5%	85.7%	4.8%	0.0%

A、B評価：
100%

A、B評価：97.6%

A、B評価：95.4%

A、B評価：95.2%

年々增加傾向



主な取組事業

年度計画No.4 基礎教育科目の充実（英語）

年度計画No.9 分野横断型シンポジウム

年度計画No.26 共同研究や教育上の国際交流

年度計画No.42 外部資金の獲得

年度計画No.43 ふるさと納税に関する大学支援



年度計画No.4 基礎教育科目の充実（英語）評価：B

令和4年度（2022年度）の学科再編に伴い、英語科目のカリキュラム変更を実施

主なカリキュラム変更：習熟度別クラス編成の導入、

発信型（スピーキングやライティング）科目の少人数制クラスの導入 等

カリキュラム変更の効果 -TOEICスコアの推移-

入学年度	学群	1年次 平均	2年次 平均	3年次 平均	伸び
(参考)2021		355.1		370.5	+15.4
2022	建築都市環境	362.3	-	383.3	+21.0
	情報生命	338.9	-	392.2	+53.3
	全体平均	350.3	-	387.7	+37.4
2023	建築都市環境	346.5	382.4	-	+35.9
	情報生命	334.8	408.3	-	+73.5
	全体平均	340.9	395.9	-	+55.0

2023年度入学者について、2024年7月～9月に、2年生英語C受講者（情報生命工学群：前期、建築都市環境工学群：後期）を対象に、TOEICオンラインテストを実施した。受験者数は2年生270名（受験率94%）で、平均スコアは1年次より55点上がった。両学群とも有意に得点が上っていることが確認され、学科再編前の2021年に入学した学生の3年次スコアの伸びが15.4点であったことと比較すると、カリキュラム変更が英語力向上に効果があったと推察できる。

第三期中期計画において、TOEICのスコア上昇を業績評価指標に設定し、更なる点数上昇に取り組んでいく。



年度計画No.9 分野横断型シンポジウム

評価：B

分野横断型シンポジウム（大学院博士前期課程2年生の研究成果発表）を
ポスターセッション方式で2月12日（水）・13日（木）の2日間で開催

2024年度 前橋工科大学 分野横断型工学研究シンポジウム

ポスター セッション 一般公開の ご案内

日 時 → 2025年 2月12日～13日(水)
9:40～16:10 (受付開始 9:10～)
※2日目のポスターセッションは午前中で終了となります。

主 催 → 前橋工科大学

会 場 → 前橋工科大学
体育館

お問い合わせ先 → 前橋工科大学 学務課 教務係
電話番号 : 027-265-7361
Eメール : kyoumu@maebashi-it.ac.jp

主な研究テーマ

- 学内での分野横断型シンポジウムの一環として、大学院博士前期課程2年生が研究成果を、ポスターセッションにより発表します。
- 前橋工科大学における学生たちの研究内容を広く知っていただくため、一般公開しております。
- 同時に、前橋工科大学における各教員の研究内容を知っていたら、企業様との連携や、将来的な連携につなげたりして、より多くの、本学教員との名刺交換等の場としてご利用ください。
- 当日は、本学大学院博士前期課程1年生も調査研究目的で参加します。
- 皆様、是非ご来場ください。

2024年度 前橋工科大学 分野横断型工学研究シンポジウム

特別講演 一般公開のご案内

ブルー・タウトの研究にたどり着いた
一建築環境工学研究者の辿った道

日 時 → 2025年 2月13日 (木)
13:00～14:30 (受付開始 12:50～)

講 師 → 田中 春明 氏
工学博士（早稲田大学）
お茶の水女子大学名誉教授
(社)日本断熱住宅技術協会理事長

氏は1965年に奥大林組に入社、技術研究所に勤務。「回転式空調実験室」を作り、熱負荷の実測を行う。その後も時代の要請に伴い、「カビ」の研究を始めとした各種研究を行う。ベルリン工科大学にも留学し、多くの知己を得る。お茶の水女子大学に異動後、ドイツの建築家ブルー・タウトの研究を行う。本講演では、タウトの作品、生涯、高崎を中心とするタウトの日本滞在についてご講演いただきます。

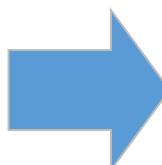
会 場 → 前橋工科大学
1号館4階 141講義室

お問い合わせ先 → 前橋工科大学 学務課教務係
電話番号 : 027-265-7361
Eメール : kyoumu@maebashi-it.ac.jp



前回開催との比較（来場者数）

		令和5年度	令和6年度
ポスターセッション	企業	69人 (41社)	26人 (21社)
	一般	—	19人
	学生	148人	357人
合計		217人	402人
特別講演会	外部	3人	16人
	学生	32人	132人
	合計	35人	148人



博士前期課程の1年生も参加を必須として実施したので、令和5年度に比べて、ポスターセッション・特別講演会の来場者数が増えた。そのため、発表者による活発な発表と、来場者との質疑応答が行われ、過去に例をみない活気あるシンポジウムとなった。

【アンケート集計結果まとめ】

■ 来場者の属性

個人、企業、本学卒業生等

■ 情報入手経路

大学関係者、大学ホームページ、キャリタスCMS 等

■ 主な参加動機

- ・大学院生の研究内容を知りたかった
- ・就職・共同研究の関心

■ 学生の説明

「わかりやすかった」と高評価であった。

■ ご意見・要望（抜粋）

- ・研究内容や対応に好印象
- ・企業との交流・教員との対話を希望





【デ・ラサール大学（フィリピン）との協定締結】

令和6年11月11日、今村一之学長と小田垣雅人准教授がフィリピンにあるデ・ラサール大学に訪問し、両大学間の学術・教育協力を発展させるための協定を締結した。

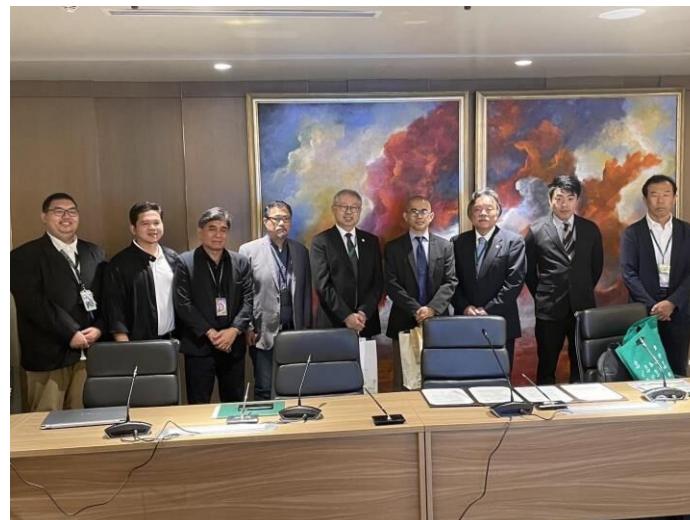
本学は、生命工学領域小田垣准教授が、かねてよりさくらサイエンスプログラム等を活用し、研究者を招聘するなど、デ・ラサール大学と交流を進めていた。

これらの取組みをきっかけに、さらなる大学間連携により、協力を深めることに同意し、協定を締結する運びとなった。

今後は、相互に学生の派遣等の交流活動を行う予定。

デ・ラサール大学：1911年に創立されたフィリピンの首都マニラ市街に位置する私立大学

現在では、国立フィリピン大学、私立アテネオ・デ・マニラ大学と並ぶフィリピン最高峰の名門大学となっており、中でも同学は、QS世界大学ランキングとTimes Higher Education世界大学ランキングの両方に掲載された唯一のフィリピンの私立大学となっている。



さくらサイエンスプログラムとは
新たな時代の社会を担う、世界の優れた人材を日本に短期間招き、日本の最先端な科学技術や文化に触れていただくプログラム

協定締結大学との国際交流事業

タイ王国・カセサート大学

期間：11月8日～11月29日 22日間

人数：教員3人、学生2人

同大学教授の研究室において交流活動を実施



ベトナム・ダナン工科大学

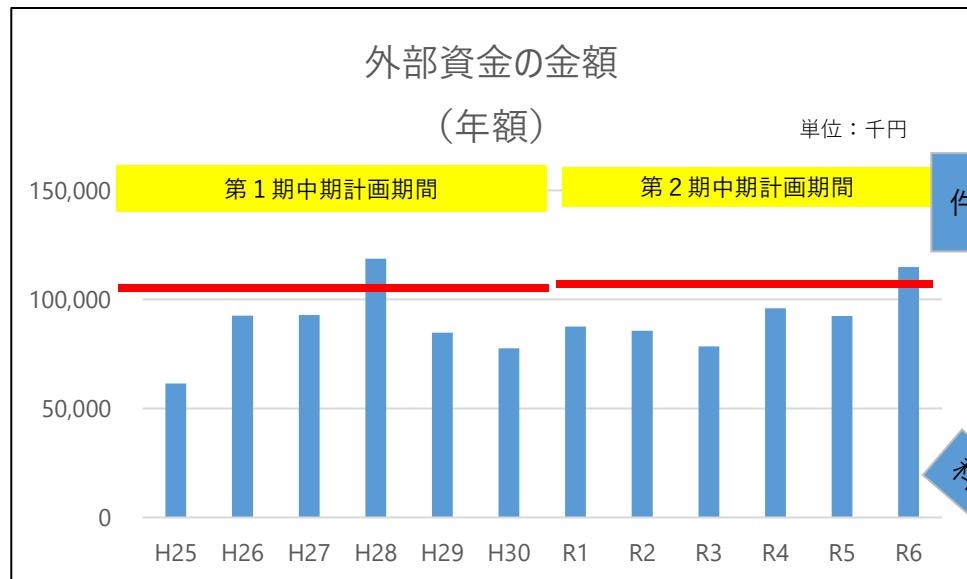
期間：9月8日～9月13日 6日間

人数：教員2人、学生6人

現地学生とワークショップを中心に交流事業を実施

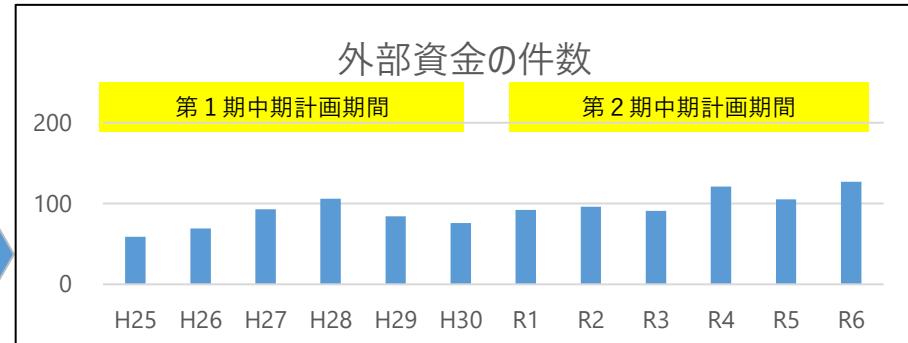


年度計画No.42 外部資金の獲得 評価：A

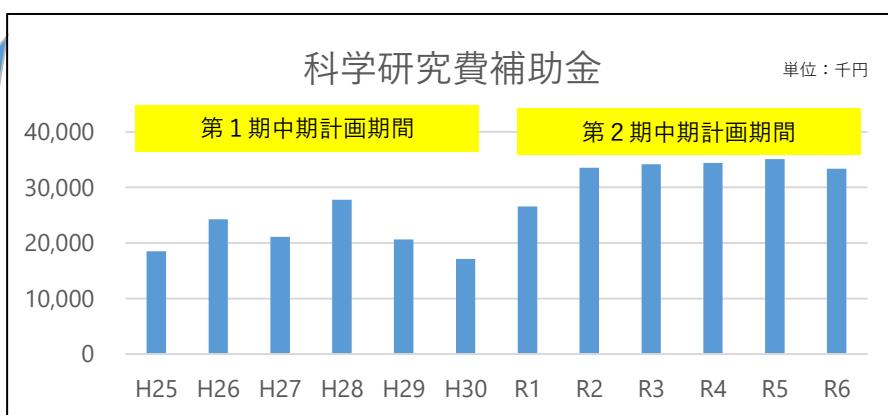


件数分析

科研費分析



	第1期中期計画期間						第2期中期計画期間					
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
外部資金の件数	59	69	93	106	84	76	92	96	91	121	105	127



	第1期中期計画期間						第2期中期計画期間					
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
科学研究費補助金平均	21,569											32,858

令和6年度は最も多くの外部資金を獲得することができ、目標値の年額100,000千円以上を達成した。

また、外部資金の件数は第1期・第2期中期計画期間を通して最も多くの件数を獲得した。



年度計画No.43 ふるさと納税に関する大学支援 評価：A

ふるさと納税 (R1.11~)

«前橋工科大学 未来へつなごうプロジェクト»

自治体と連携したふるさと納税による大学支援は、関東の公立大学では初の取組
⇒学生支援など大学にとって必要なテーマに対して活用

寄附額 & 寄附件数が過去最高に！

令和6年度ふるさと納税交付金の活用例



学内環境整備事業 (ベンチ・ベンチテーブルセット)



学生支援消耗品購入事業 (米英仏式バルブ対応空気入れ)



【寄附額】
R6:4,713千円 (264件)
R5:4,615千円 (222件)
R4:3,759千円 (163件)
R3:3,865千円 (165件)
R2:4,481千円 (221件)
R1:2,221千円 (69件)
**※平均:3,942千円
(184件)**

パンフレット





課題のある事業

数値目標 (3)市内・県内企業との共同研究実施件数



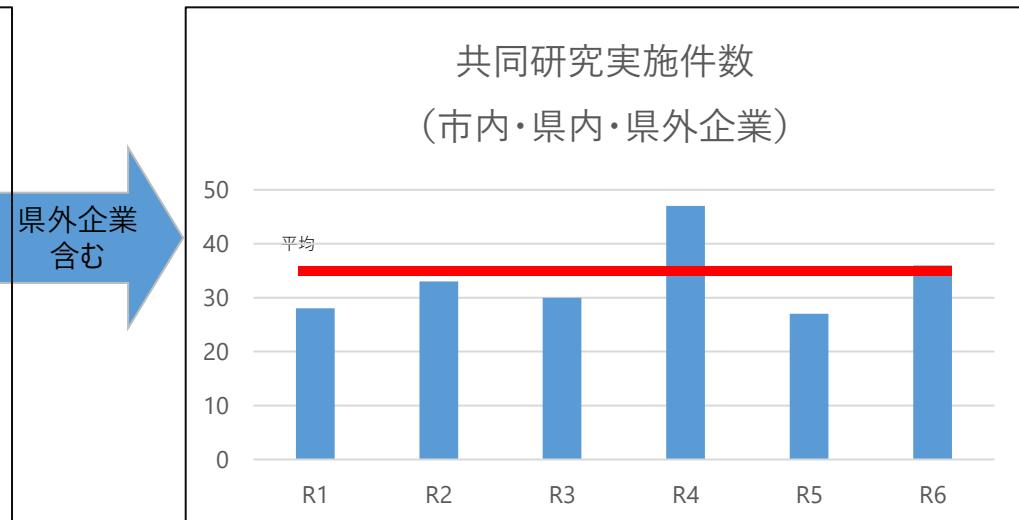
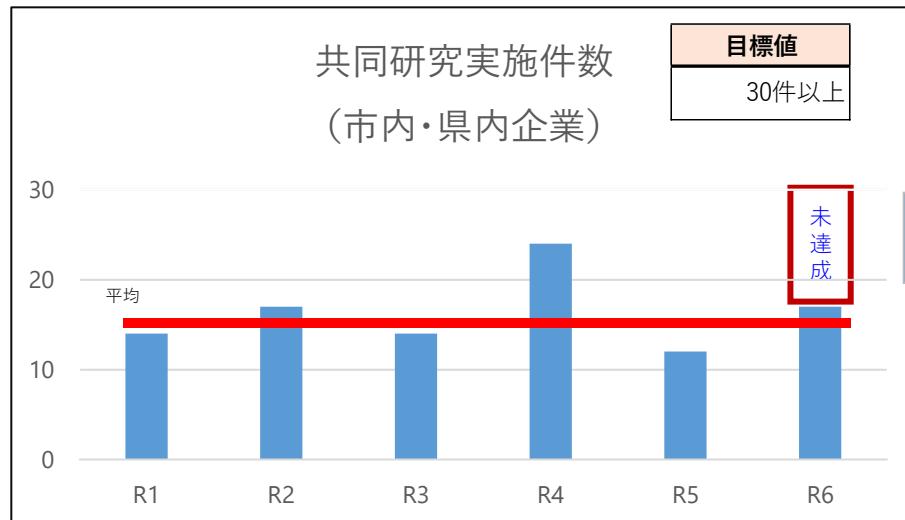
令和6年度までの数値目標の状況

項目	中期計画No	目標値	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
(1)学術団体論文誌等への論文の掲載数（累計）	1-(2)	420編以上（累計）	79編	131編	210編	295編	357編	443編
(2)地域貢献に関する事業への学生の参加数	1-(3)	200人以上（単年度）	254人	35人	30人	38人	280人	276人
(3)市内・県内企業との共同研究実施件数		30件以上（単年度）	14件	17件	14件	24件	12件	17件
(4)外部資金の金額（年額）	3	100,000千円以上（単年度）	87,647千円	85,723千円	78,498千円	96,011千円	92,363千円	114,842千円
(5)認証評価（計画期間中）	4	認定 ※7年に1度	-	-	-	認定	-	-

- (1)学術団体論文誌等への論文の掲載数（累計）は、6年の期間中の6年目で目標を達成
(2)地域貢献に関する事業への学生の参加数は、令和2年度からの3年間はコロナの影響を受けたが、5年目で目標を達成
(3)市内・県内企業との共同研究実施件数は、年々増加傾向にあるものの、目標を未達成
(4)外部資金の金額（年額）は、令和6年度に最も多い金額を獲得し、目標を達成
(5)認証評価（計画期間中）は、令和5年3月15日付けで「大学評価基準を満たしている」と認定され、目標を達成



数値目標 (3)市内・県内企業との共同研究実施件数



第2期中期計画期間						
	R1	R2	R3	R4	R5	R6
共同研究実施件数 (市内・県内企業)	14	17	14	24	12	17
平均			16			

第2期中期計画期間						
	R1	R2	R3	R4	R5	R6
共同研究実施件数 (市内・県内・県外 企業)	28	33	30	47	27	36
平均				34		

目標値には達しておらず、令和6年度は、令和4年度の24件より少なく、また令和2年度と同様の17件となった。

県外企業を含めるといずれの年度も件数は約2倍となり、令和6年度の実施件数は目標値の水準に達することができた。



第2期中期目標期間（令和元年度～令和6年度） における業務実績に関する報告書【概要版】



第2期中期目標期間（令和元年度～令和6年度）の総括評価結果

【第二期中期計画 評価】

業務の全体的な実施状況は、42項目のうち、中期計画を上回って達成しているA評価が2項目（4.8%）、中期計画を十分に達成しているB評価が39項目（92.9%）、中期計画を十分に達成しないC評価が1項目（2.3%）であった。

C評価の項目については、コロナの影響を大きく受けた計画であり、それを除く41項目がA評価又はB評価となっており、中期計画を十分に達成していると認められる。

No	区分	第二期中期計画（R1～R6）			
		A	B	C	D
1	大学の教育研究等の質の向上に関する計画	1	18	1	0
2	業務運営の改善及び効率化に関する計画	0	5	0	0
3	財務内容の改善に関する計画	1	4	0	0
4	自己点検・評価及び情報公開に関する計画	0	3	0	0
5	その他業務運営に関する重要な目標	0	9	0	0
合計		2	39	1	0
比率		4.8%	92.9%	2.3%	0.0%

【6年間の年度計画 総括評価】

第二期中期計画期間（R1～R6年度）における6年間（R1～R6年度）の総括評価結果は、6年間の全体462項目のうち、年度計画を上回って実施している（A評価）が4.8%、年度計画を計画どおりに実施している（B評価）が93.0%であった。

全体の97.8%がA評価又はB評価となっており、6年間の年度計画を順調に推進したことが認められる。

これらのことから、第二期中期計画は、おおむね計画どおりに達成できている。

A、B評価：97.8%

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	6年間の総括結果							
A評価（年度計画を上回って実施している）	8項目	9.5%	3項目	3.4%	4項目	4.8%	1項目	1.3%	3項目	4.3%	3項目	4.8%	22項目	4.8%
B評価（年度計画を計画どおりに実施している）	72項目	85.7%	80項目	92.0%	77項目	92.8%	75項目	98.7%	67項目	95.7%	59項目	95.2%	430項目	93.0%
C評価（年度計画をやや遅れて実施している）	4項目	4.8%	4項目	4.6%	2項目	2.4%	0項目	0.0%	0項目	0.0%	0項目	0.0%	10項目	2.2%
D評価（年度計画を実施していない）	0項目	0.0%	0項目	0.0%	0項目	0.0%	0項目	0.0%	0項目	0.0%	0項目	0.0%	0項目	0.0%

【C評価（年度計画をやや遅れて実施している）の内容】

- 先送りしたものは、全て令和3年度までに実施済
- コロナによる中止のものは、令和4年度から徐々にコロナ禍以前の状況に戻りつつある。



第二期中期計画期間におけるA評価及びC評価の取組

【A評価の計画】

中期計画No.10 幅広い研究の実施

中期計画No.28 ふるさと納税に関する大学支援

【C評価の計画】

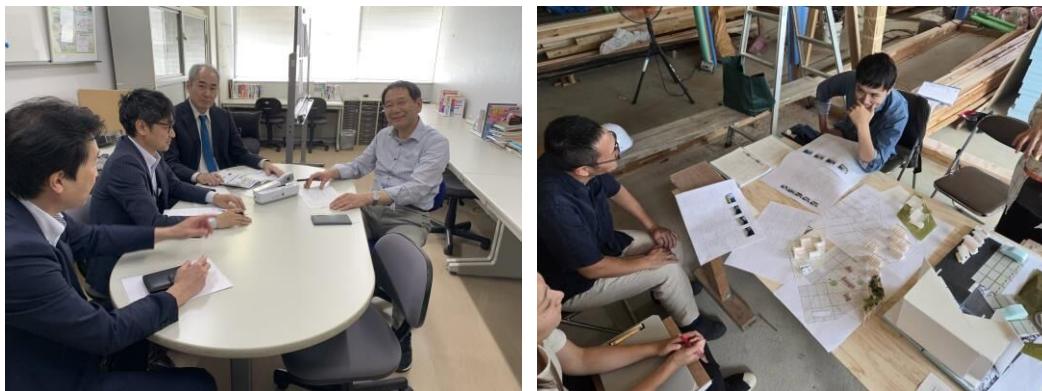
中期計画No.16 地域貢献事業（学生のイベント参加）



中期計画No.10 幅広い研究の実施 評価 : A

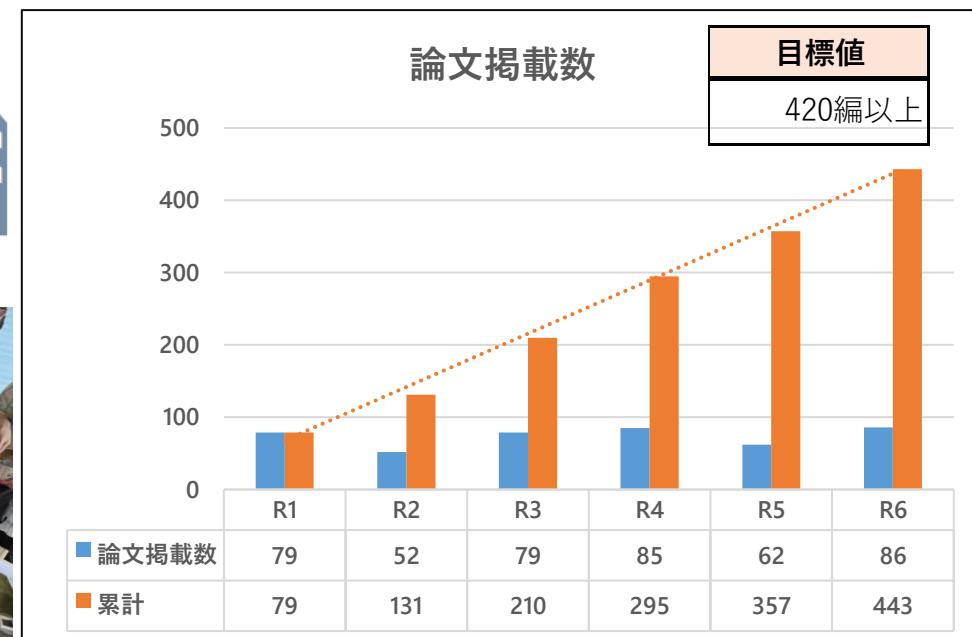
【共同研究の推進】

異業種交流会や伴走支援事業を充実させ、企業との面談には产学連携コーディネーターと連携しながら事務局職員が積極的に参加し、教員と企業の橋渡し役を担った。共同研究件数は、年間平均34件で推移し、研究の成果を地域の課題解決等に還元できた。



【論文掲載数】

論文投稿や作品制作の奨励により、論文掲載数は第二期中期計画期間中に計443編と目標（420編）を上回る成果を挙げた。





中期計画No.28 ふるさと納税に関する大学支援 評価：A

第二期中期計画期間におけるふるさと納税交付金の活用例

令和2年度

(アクリルパーテーション・フェイスシールド)



令和3年度

(空気清浄機・書籍消毒機・軽食用自動販売機)



ふるさと納税 (R1.11~)

自治体と連携したふるさと納税による大学支援は、関東の公立大学では初の取組
⇒学生支援など大学にとって必要なテーマに対して活用

【寄附額】

R6:4,713千円 (264件)

R5:4,615千円 (222件)

R4:3,759千円 (163件)

R3:3,865千円 (165件)

R2:4,481千円 (221件)

R1:2,221千円 (69件)

※平均:3,942千円
(184件)

令和4年度
(パーテーション)



令和5年度
(個別ブース及び椅子・PCロッカー・
こども科学教室での縁日企画等)



令和6年度
(ベンチ・ベンチテーブルセット・空気入れ)





中期計画No.16 地域貢献事業（学生のイベント参加） 評価：C

地域貢献学生スタッフ 参加実績（第2期中期計画期間）

年度	参加者数	主な活動内容
R1	251人	こども科学教室（244人）、七夕まつりボランティア（7人）
R2	35人	こども科学教室（35人）
R3	30人	こども科学教室（30人）
R4	14人	デジタルデバイド事業（14人）
R5	202人	こども科学教室（179人）、地域DXワークショップ（6人）、アップデートアース運営（17人）
R6	220人	こども科学教室（199人）、ウインターラボ（11人）、紙飛行機大会運営（10人）



- ・R2～R4については、コロナ禍の影響を受けて参加者数が減少している。
- ・6年間の実績を見ると、**主な活動は「こども科学教室」**であり、ほぼ毎年実施され、安定した参加者数になっている。
- ・デジタルデバイド事業、地域DXワークショップ、アップデートアース運営、ウインターラボや紙飛行機大会運営など、**新たな取り組み**も加わり、活動の多様化が進んでいる中で、第三期中期計画では更なる学生の参加を促進していき、学生による地域貢献の成果が着実に蓄積していきたい。